

京都の都市型里山の新しい活用のあり方 ～大学生の持続的な参加へ～

指導責任者: 舘野 隆之輔 教授

事業主導: 倉内洋翔(農学部地域環境工学科・森里海と文化研究会代表)

Activity Area / Overview | 活動地域 / 概要

- ・京都における、都市近郊の里山を有効活用することで、より多くの学生に里山との関わりを持ってもらうことを目指す
- ・主要活動地域は**上賀茂試験地**(京都市)・**かせやまの森**(木津川市)
- ・また、取り組みへの参考や情報収集とするため、近畿圏内の里山施設を数箇所訪問した。
- ・里山との関わりを持ってもらうきっかけづくりのために、イベント出展やワークショップなどを実施した。
- ・後期からは学生の更なる定着を目指し、大学生が自ら作る里山拠点の整備も実施

Field Work | 里山での活動

フィールドワークでは

- ・上賀茂試験地の「里山おーぷんらぼ」での協働
 - ・2回にわたる「炭焼きイベント」の開催(7月・3月)
 - ・かせやまの森での活動(里山づくり)
- を実施した。

そのほか

- ・龍谷の森などの滋賀県の自然共生サイト
 - ・弓削牧場など神戸近辺の里山拠点
 - ・花背山の家
- などへの訪問を行った。

成果

- ・炭焼きイベントでは30名以上の方が集まる
→里山をより身近に感じてもらうイベントとして成立
- ・里山への継続的な参加も一定の成果を得た
- ・施設訪問における里山が関わる身近な材料の発見

課題

- ・各フィールドを支える
運営陣の不足
 - ・活動頻度・手法が少ない
 - ・参加学生の分野が自然科学
系に偏っている
- など



Event / Workshop | イベント・ワークショップ

活動の知名度を上げるために、
イベント出展やワークショップを実施。



実施状況は以下のとおり。

- 3/9 流域連携フォーラム－イオンモール桂川
- 2/18 SATOYAMAフォーラム－国連大学
- 12/8 里山里海つながるフェス－イオンモール高の原
- 11/19-23 京都大学11月祭－京都大学
- 8/4 こども公園大学－京都大学時計台記念館

成果

- ・11月祭では計4日間の展示で100名弱が来場
- ・コンスタントに出展や宣伝の機会を得られた
- ・出展に関わった人からの今後につながる気づき
→活動を広めるための現実的な働きかけに繋げたい
→人々が抱えている想いの共有

課題

- ・来場者は予想を下回った
(特に学生が少ない)
 - ・訴求したい内容の伝え方に
更なる改善が求められる
- など



Issue | プロジェクト全体の課題・気づき

- ・**全体的な人材不足、特にリーダー人材の不在**
→学生団体の定着度・求心力の改善が必要
→活動の「見せ方・手法」を変えることも一案
- ・**里山に行くきっかけづくりのハードルに対する乖離**
(元から関わりがない人は忌避感がありがち)
→他で実施している「料理を介した交流会」が鍵か
→さらに身近で気軽な手法に帰着させる
- ・**現実的な手法をどこに帰着させるか?**
→現代の若者に適合したやり方を模索する必要あり

特設サイト・SNSなど

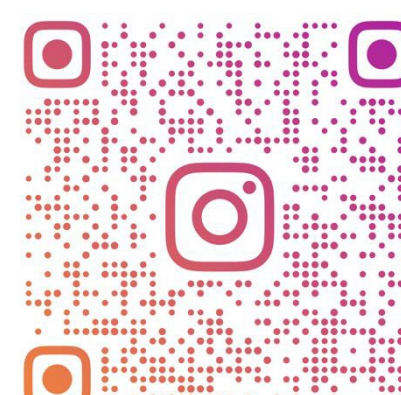
特設サイトでは文献調査や各種開催したイベントの詳細(一部)を掲載しております。左下のQRコードより読み込んでいただいた上でご確認ください。
本事業は学生団体 森里海と文化研究会にて学生の派遣などを行いました。各種SNSより活動を発信しております。



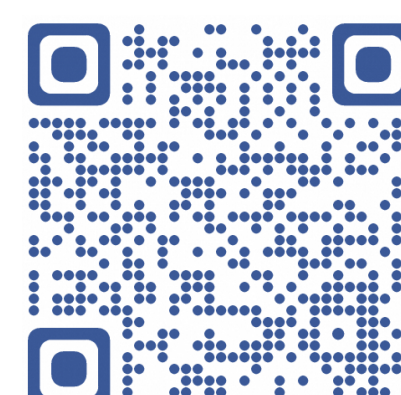
特設サイト



X



RESEARCH_COHHO



Facebook